

雌阿寒岳の火山活動解説資料（令和4年8月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1-①～⑥、図2～4、図5-①）

監視カメラによる観測では、北西斜面06噴気孔列の噴気の高さは火口縁上100m未満、96-1火口の噴煙の高さ、赤沼火口及び中マチネシリ火口の噴気の高さは火口縁上概ね300m以下で経過しており、各火口の噴煙・噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図1-⑦～⑧、図6）

火山性地震はおおむね少ない状態で経過し、主にポンマチネシリ火口の深さ約1kmより浅い所と中マチネシリ火口の深さ約0～1km付近で発生しました。

27日に継続時間の短い火山性微動を観測しました。火山性微動発生前後で、噴煙・噴気の状態に変化は認められませんでした。また、火山性微動発生直後に火山性地震が一時的に増加しましたが、その後は少ない状態で経過しています。

・ポンマチネシリ96-1火口周辺の全磁力の状況（図5-②）

全磁力連続観測では、ポンマチネシリ96-1火口周辺の地下での火山活動の高まりを示すような特段の変化は観測されていません。

・地殻変動の状況（図7～8）

ポンマチネシリ火口付近に設置した傾斜計では、27日の火山性微動と同期した南東方向が上下するわずかな傾斜変動が観測されました。

広域のGNSS連続観測で2016年10月頃から観測されていた、雌阿寒岳の北東側に膨張源が推定される地殻変動は、2019年夏頃から停滞しています。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図10mメッシュ（火山標高）』、『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和4年9月分）は令和4年10月11日に発表する予定です。

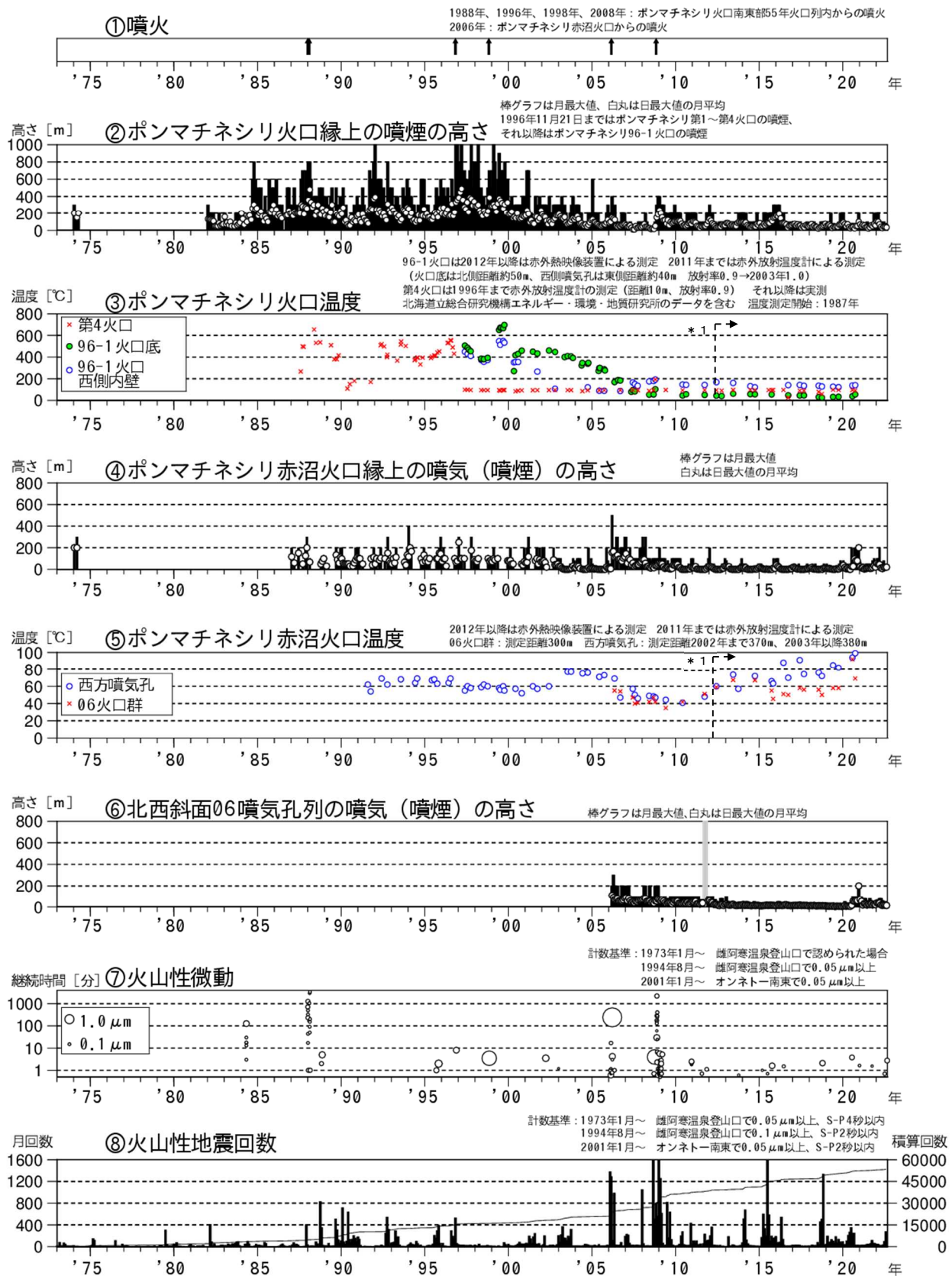


図1 雌阿寒岳 火山活動経過図（1973年1月～2022年8月）

⑥の灰色部分は機器障害による欠測を示します。

2012年（*1）から分解能の高い測定機器に変更したため、以前に比べて測定温度が高くなる傾向があります。

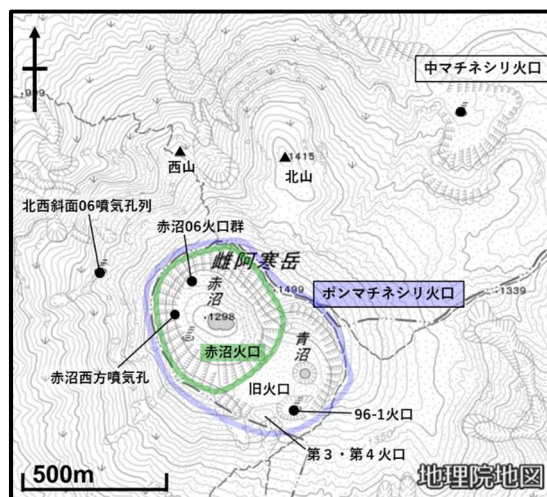


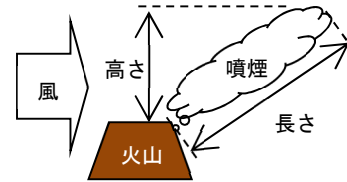
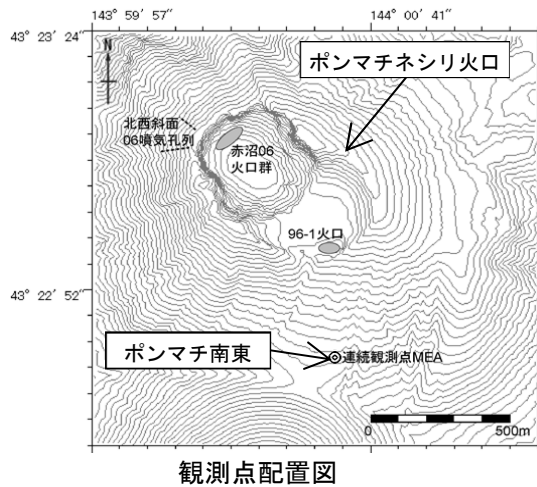
図2 雌阿寒岳 火口周辺図



図3 雌阿寒岳 南東側から見た赤沼火口、96-1 火口及び中マチネシリ火口の状況
(上徹別監視カメラによる)

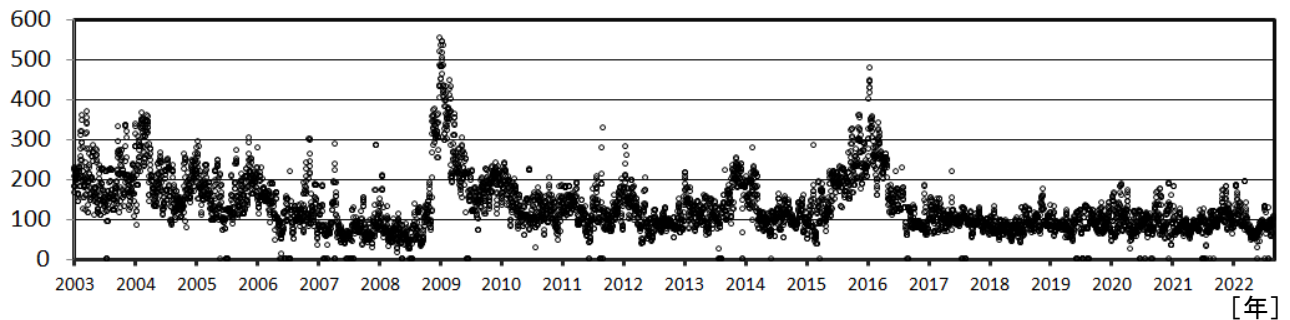


図4 雌阿寒岳 西側から見た赤沼火口及び北西斜面 06 噴気孔列の状況
(オンネトー展望台（道）監視カメラによる)



噴煙の長さ
[m]

①ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の長さの推移



②ポンマチ南東観測点の全磁力値変化



図5 雌阿寒岳 ポンマチネシリ96-1火口の噴煙の長さとお磁力値の経過及び全磁力観測点配置図
(2003年～2022年8月)

- ①のグラフに示す噴煙の長さは気温の影響を受けることから（気温が低いと噴煙は長くなり、高いと短くなる傾向がある）、気温補正後の値をプロットしています。
- ②のグラフに示す全磁力値は、地磁気観測所女満別観測施設との全磁力値差をプロットしており（表示開始は2003年10月16日）、空白部分は欠測を示します。

- ・ 2016年5月以降、96-1火口の噴煙量は低下した状態が続いています。
- ・ ポンマチ南東観測点の全磁力値は、2020年1月頃からわずかな減少傾向がみられていましたが、2022年6月頃から概ね横ばいで推移しています。

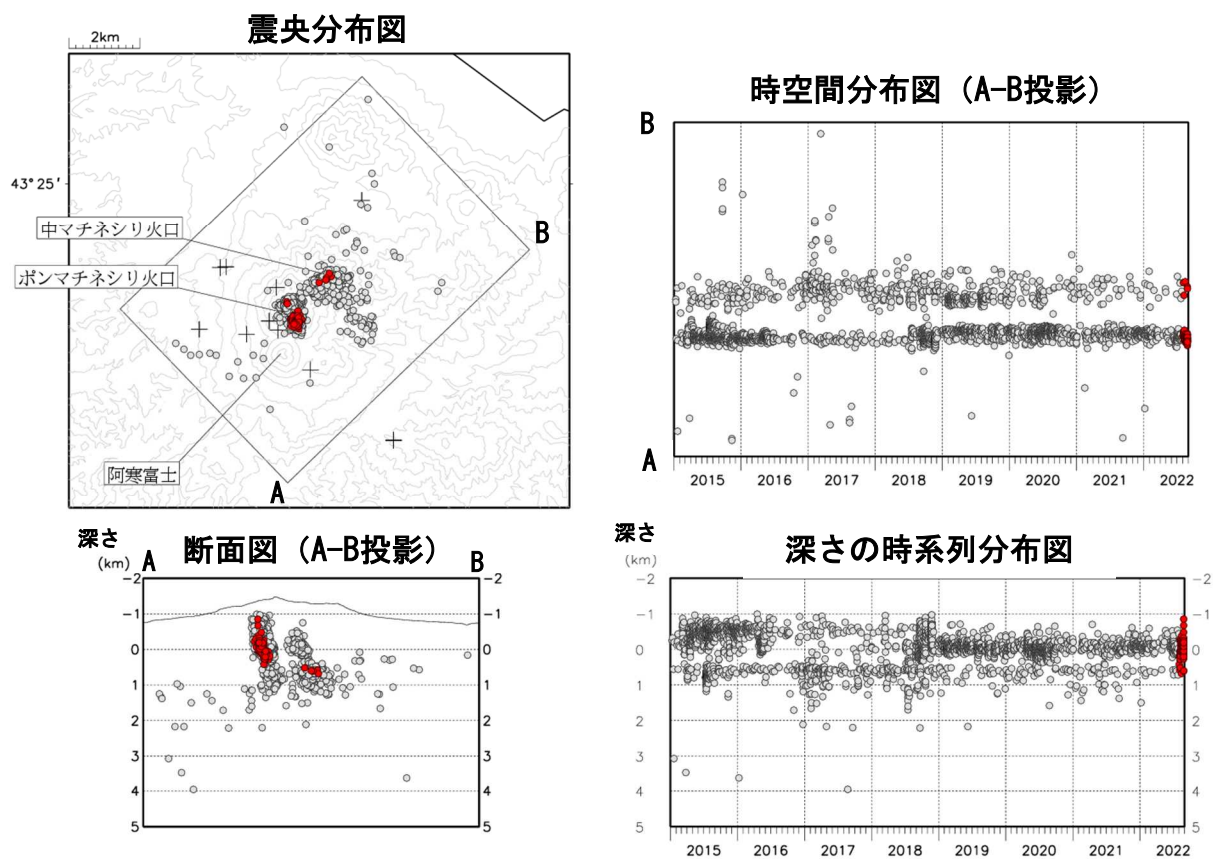


図6 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布（2015年1月～2022年8月）
 ●印：2015年1月～2022年7月の震源 ●印：2022年8月の震源 ＋印：地震観測点

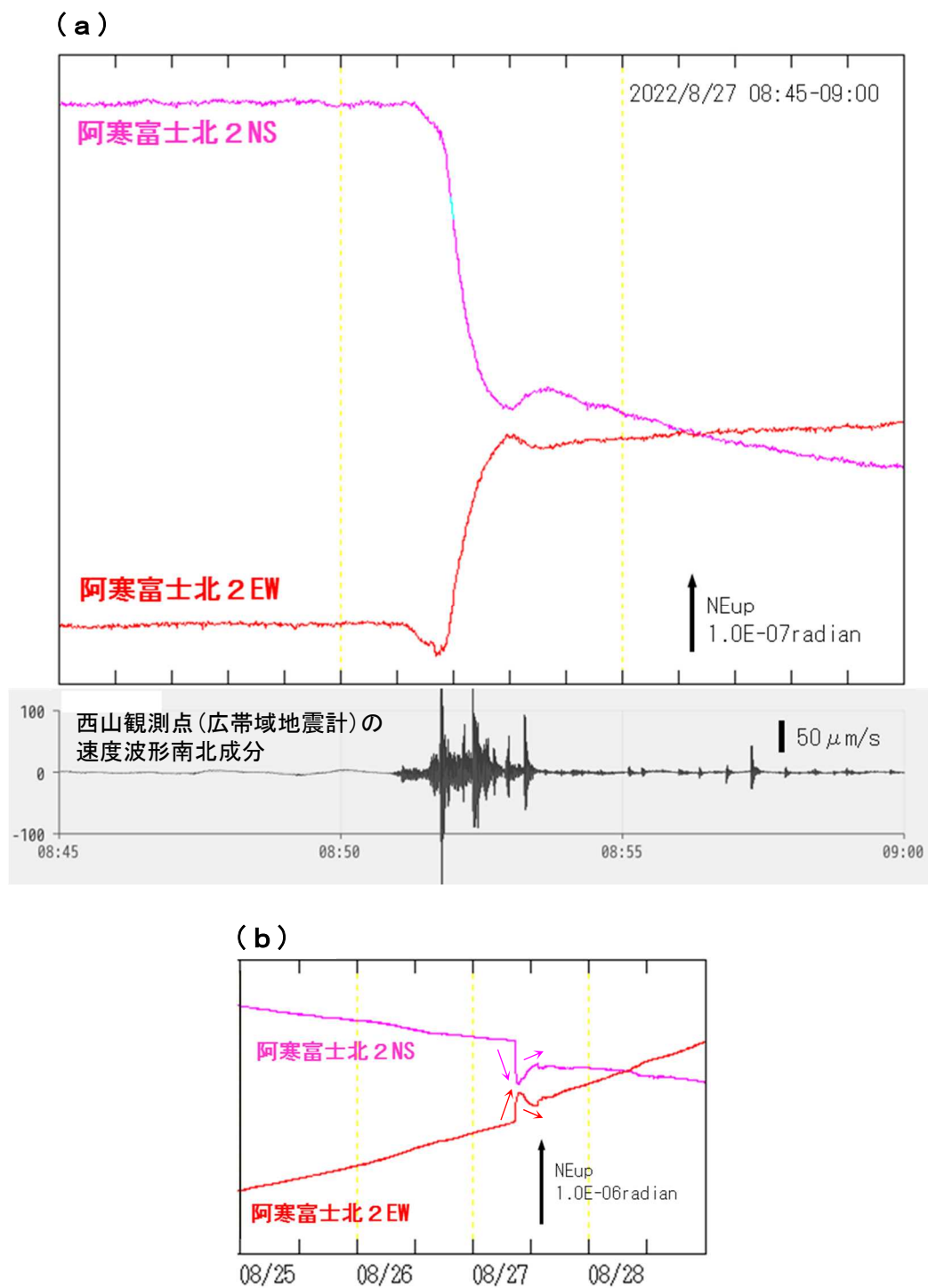
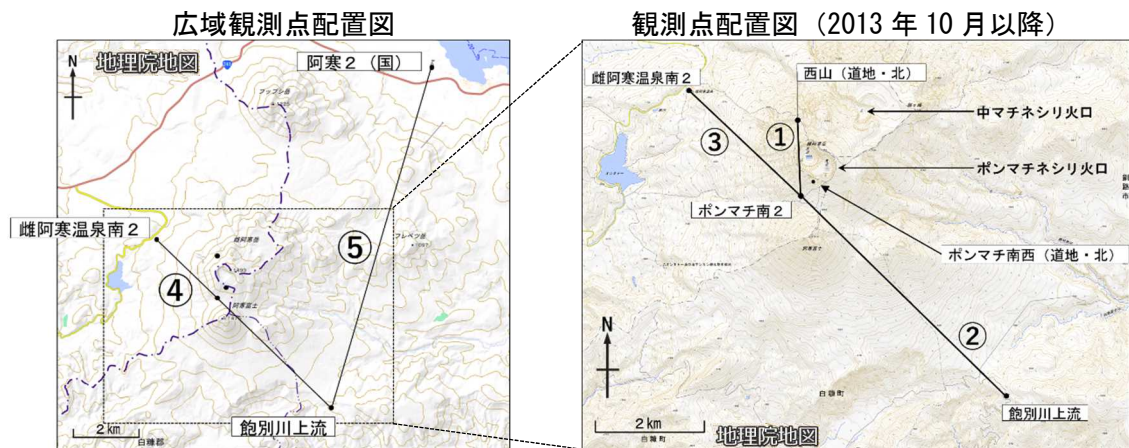
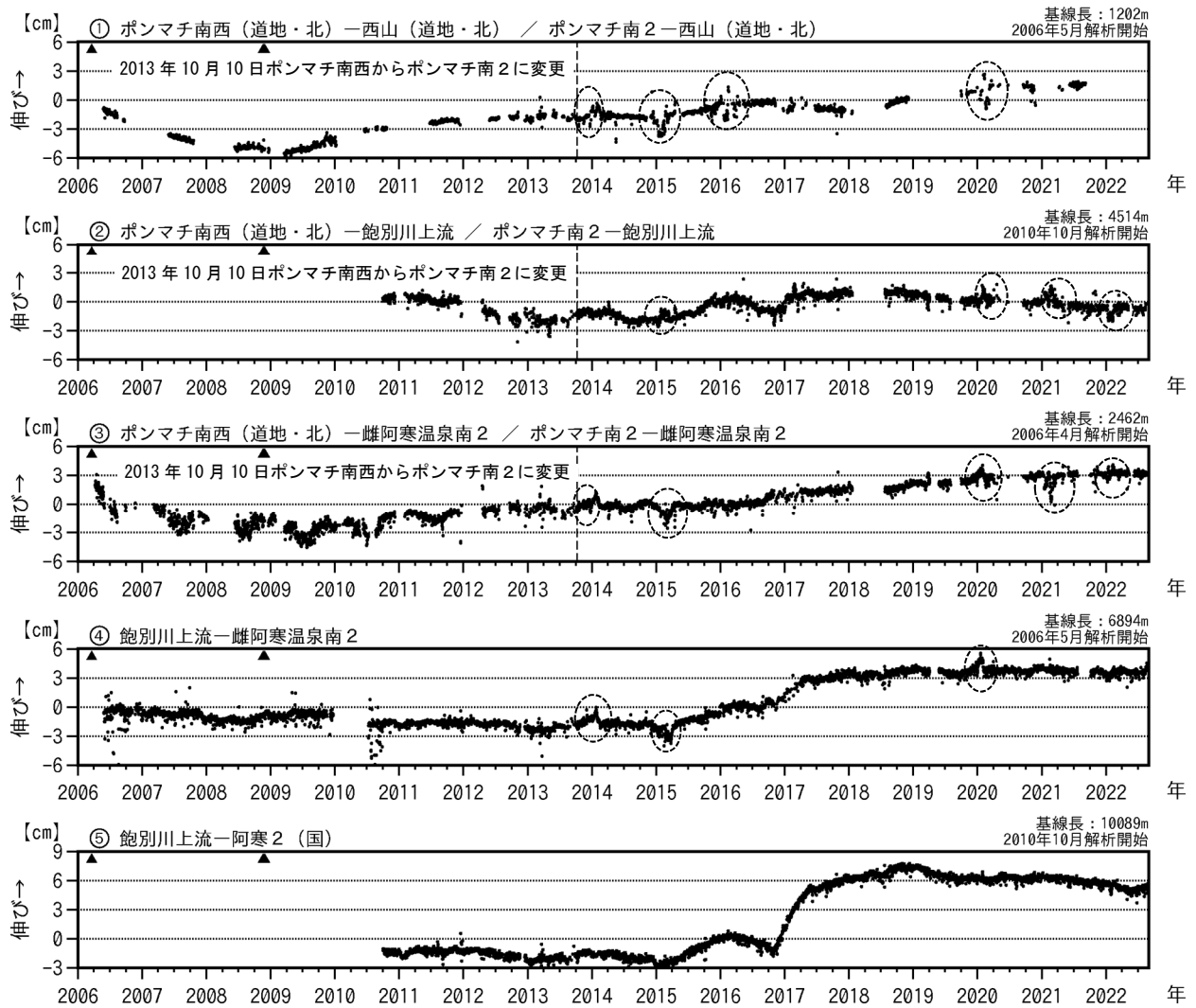


図7 雌阿寒岳 (a) 27日に発生した火山性微動と同期して観測された傾斜変動及び (b) 微動前後4日間の傾斜記録

(a) の上段の水色は欠測を示す

- ・ポンマチネシリ火口付近に設置している阿寒富士北2の傾斜計では、08時50分頃の微動発生時間帯に急激な南東上がりの変動 (a) と、その後反転して以降のゆっくりと戻る変動 (b) を観測しました。



（国）：国土地理院 （北）：北海道大学
（道地）：地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所

図8 雌阿寒岳 GNSS連続観測による基線長変化（2006年4月～2022年8月）及び観測点配置図
グラフ①～⑤は観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。
▲はごく小規模な噴火の発生を示します。
グラフの空白部分は欠測を示します。
破線円内の変動は凍上や積雪の影響によるものと考えられます。

